

雲くも
(室生犀星)

信濃しなのの くにの 雲くもは

いつも 小鳥ことりの やうに 迅はやく

こまかく ちぎれて 飛とんだ

ちぎれた ものは

鵲せきれいの 黄きいろい 翼つばさを いろどり

檜かしどり鳥の 夕焼 色の 腹はらにも 似に

また 小雀こがらの やうに 立たつて 消きえた

誰たれが それを 記憶きおく しよう

消きえた 翼つばさの いろの

あるか ないかの 梢こすえの あたりに

誰たれが その思おもひを つずる ことだろう

解説 信濃の国の雲を描いた詩。

語釈 ※信濃 戦国時代には小笠原・村上・諏訪・木曾・上杉・武田の諸氏がその勢力を争った。江戸時代は小藩が分立。明治四年の廃藩置県後に長野・筑摩の二県が置かれ、同九年統合されて、現在の長野県となる。信州。科野 ※鵲せきれい セキレイ科に属する鳥の総称。大きさはスズメよりやや大きく、尾が長い。体は黒白、または黄と黒に染め分けられ美しい。尾羽を上下に振りながら歩く習性がある。※檜かしどり鳥 カケスの別名。※小雀 シジュウカラ科の小鳥。全長一二〜一三cm。背は淡灰褐色で胸腹部は淡灰色。※梢 枝の先。※つずる 欠けたり破れたりしたところをつぎ合わせる

通釈 信濃の国の雲は、いつも小鳥のように速く、細かくちぎれる。ちぎれた雲の破片は鵲せきれいの黄色い翼のように彩られ、また、檜かしどり鳥の夕焼け色の腹にも似ている。そして小雀のように消えてしまう。誰がそのことを記憶しているのか。消えた翼の色は、梢のあたりに有るのではないか。誰がその思いを接ぎ合わせるのだろうか。